

新たな公共事業の計画策定プロセスと今後の方向について

— 公共事業全般 —

京都大学大学院
小林 潔司

計画策定プロセスとは・・・

- 計画策定プロセスとは、計画検討の発議から計画案を決定するまでの過程において、透明性、客観性、合理性、公正性を高めるとともに、環境的側面、経済的側面、社会的側面等の総合的な観点から適切に判断し、より良い計画づくりに資するために行う手続きであり、原案(複数案)の作成、市民等関係者への情報提供及び意見把握、様々な観点からの原案の評価及びそれらを踏まえた計画案の決定などである。

計画策定プロセスにおける アカウントビリティ

■ 行政 対 議会（政治的正統性）

法的アカウントビリティ

■ 計画策定者 対 委員会（政治的非正統性）

専門的アカウントビリティ（内部統制: アカウントビリティ）
（社会的専門知識の厳密性と適正性に関する議論）
地方議会は委員会による専門的判断の適正性に対して、
check and balanceの機能を果たす

公的アカウントビリティの種類

	内的統制	外的統制
自立性低い	階層的アカウントビリティ Hierarchical Accountability	法的アカウントビリティ Legal Accountability
自立性高い	専門的アカウントビリティ Professional Accountability	政治的アカウントビリティ Political Accountability

公的アカウントビリティの機能

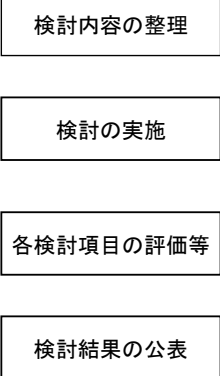
- 民主的コントロールの役割を果たす
- 行政の誠実性(integrity)を高める上で重要である
- 行政活動に対する評価を通じて業務改善を促す
- 行政の正統性(legitimacy)を高める機能を有する
- 過失を浄化(catharsis)する作用 がある

- 計画策定者は、**構想段階**における計画策定プロセスが**透明性、客観性、合理性、公正性**をもって適切に行われるよう、次の3点に留意して計画検討を進めなければならない。
 - ①計画検討手順の事前の明確化
 - ②住民参画促進及び技術・専門的検討との連携
 - ③事業特性や地域特性を踏まえた検討

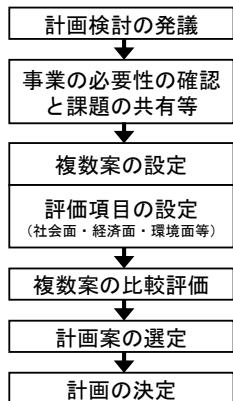
アカウンタビリティ概念の段階

- 法的アカウンタビリティ
- プロセス・アカウンタビリティ ①
- パフォーマンス・アカウンタビリティ ② ③
- プログラム・アカウンタビリティ 構想段階
- 政策アカウンタビリティ

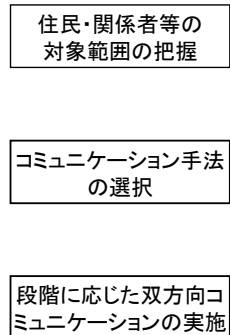
技術・専門的検討



計画検討手順



住民参画促進



計画策定者が実施する内容

アカウントビリティの構造 (many hands and many eyes)

- 意味の構造(structure of meaning: スコーピング)
- 正統性の構造(structure of legitimacy)
- 支配の構造(structure of governance)

正統性の構造

正統性は、ある主体およびその行為を、規範、価値、信念、定義等が社会的に構造化されたシステムのなかで、望ましく妥当であり、あるいは適切であるという一般化された認識

- 利害的正統性(legitimacy of interests)
人々の自己利益になるかどうかに基づく正統性
- 道徳的正統性(legitimacy of morals)
行為が正しいかどうかという評価に基づく正統性
手続き的正統性
- 認知的正統性(legitimacy of cognition)
文化的に必要性を認識されることに基づく正統性

認識正統性の基準 専門的知識の正統性

- 理解可能性 (Comprehensibility)
 - 当然性 (take-for-grantedness)
 - 厳密性 vs 適正性
 - 「であること」vs「であるべきこと」
-

今後の課題

- 意味の構造(structure of meaning)
言語理解 コミュニケーション
 - 正統性の構造(structure of legitimacy)
司法的検討・プロセス法制化
プロフェッショナルの妥当性境界
地域の実情に即したローカルな知識(現場知)
 - 支配の構造(structure of governance)
信頼形成
-